学校長だより　Ｎｏ．４（平成 29 年 7 月 19 日）

さじなめて　童（わらべ）たのしも　夏氷

急に夏らしくなってまいりました。夏の代表の風物詩といえば氷ですね。今では冷蔵庫で簡単にできる氷ですが、江戸時代には、はるばる加賀藩（金沢）から天然の氷が「お氷さま」として、将軍のもとに献上されたといいますから、昔はいかに貴重なものだったのかがわかります。かき氷にアイスクリーム、昔の贅沢の極みを今や誰もが享受できる幸せな時代、これからもずっと続くことを願ってやみません。

さて、1 学期が無事に終わろうとしています。保護者の皆様におかれましては、学校の取組に対しまして、何かとご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。これから子どもたちは夏休みとなりますが、教職員は「研修の夏」となります。本校を例にしますと夏季休業中に学校主催の研修が 16 コマほど予定され、その他、教育センターでの研修や認定講習、免許更新講習などもあり、さながら専門性向上強化月間となります。これからも、もっともっといい授業を実践できるよう努力してまいりますので、２学期からもどうかよろしくお願い申し上げまして、今学期終業の挨拶といたします。

お祭りの夏！

夏の風物詩をもう一つ、7 月 7 日の「七夕」に代表される『おまつり』ですね。本校では、7 日に寄宿舎、15 日は学校で夏祭りを行いました。国立高知病院分校は 25 日、8 月 5 日は子鹿園分校と続きます。高知の夏よさこいは 10･11 日､今年も懲りずにチーム「きらり」で参加しようと張り切っております。

さて、踊りといえばお隣の徳島県では阿波踊りが有名ですね。三大盆踊りの一つとして 400 年以上の歴史があり、毎年 100 万人以上の観光客で賑わうということです。「よさこい」だって今や全国区、いやいや世界に広がる勢いですから、負けてはいられません。こうした夏のお祭りですが、「七夕」は 5 月の「端午の節句」に続くお節句の一つです。その他にも、暑気払いであったり、無病息災であったり、祖先の霊を慰めるといった古来からの習わしが、楽しいお祭りとして今に伝えています。

文化芸術の振興！！

学校では、文化・芸術の振興を柱にしていることをお知らせしていましたが、その取組として、昨年に引き続き、本校・分校ともに、紙とあそぼう作品展（いの町）にたくさんの力作を出品しています。7 月 25 日～8 月 20 日まで展示されますので、ぜひ、ご覧ください。また、審査も行われ、その結果、なんと 4 校すべて入賞・入選を果たしました。天晴！

学校(学部等)	作　品	受　賞
本校(中Ｃ)	あじさい～私たちの花～	いの町紙の博物館長賞
〃(小 1･2)	花火ドーン！	入　選
〃(小 3･4)	広い海の中に！	入　選
〃(中訪問)※	仁淀の秋…コスモス	入　選
子鹿(中･高)	みんなのＨＡＮＡ	土佐和紙賞
国立高知(小)	おいしい野菜ができたよ	高知県製紙工業会理事長賞
〃　(中･高)	つながれ明日へ僕らの志	幕末維新博賞
土佐希望(小)	だるまがいく -土佐の海は広いなぁ-	入　選

※　仁淀中学校との居住地校交流学習で作った作品です。

「正しく恐れよ」「災害は忘れられたるころ来たる」

タイトルの格言は本県とゆかりの深い寺田寅彦先生が遺したものであることを第３号でもお伝えしたところですが、夏目漱石とも親交のあった物理学者でもあり随筆家でもある寺田寅彦先生は、幼少期から青年期を父親の出身である高知市で過ごしました。自然災害に見舞われることが多い本県での生活が、この格言に大きく関係しているとも言えるのではないでしょうか。当時の家屋は高知市小津町に記念館として大切に保存され、見学をすることもできます。東北、熊本と相次ぐ大きな地震や今回の九州地方の豪雨など、自然に翻弄される私たちは、先人の遺した知恵や戒め、発達したネットワークによる正しく根拠のある情報をもとに、冷静かつ的確に対処し、命を守らなくてはなりません。特に、近い将来必ず発生するとされている南海トラフ地震への備えは、最優先課題となっています。先日、日高養護学校で開催されたＰＴＡ研修会において、熊本地震での避難所の実態等の講義を聞き、想定外にどう対応するかが重要なのだと改めて認識いたしました。学校では災害時や緊急時に備え、対応訓練を毎年行っていますが、福祉避難所に指定されている本校では、7 月 25 日に地域（西根木谷地区）の皆さんと教職員との合同防災避難訓練を実施します。災害から子どもたちの命を守り、命をつなぐために、地域の人々の助けも借りながら、大きな災害を想定した避難所設営訓練を行う予定です。いざというときに地域の皆さんが駆けつけてくださることは何と心強いことか、地域に支えられていることを本当に実感しています。